

オスプレイ配置を中止し日本の空の安全を求める署名

内閣総理大臣殿
外務大臣殿
防衛大臣殿

【要請の趣旨】

2016年12月13日夜 米軍普天間基地所属のMV22 オスプレイが沖縄県名護市安部の海岸に墜落しました。米海軍安全センターは事故の規模を最も重大な「クラスA」に分類、機体は大破し、乗員2人が負傷して病院に運ばれ、他の3人も軽傷をおったとされる大変な事故が起きました。この事故を受けて沖縄県は「事故原因が究明されるまでは再開しないよう」申し入れたにもかかわらず、19日には、米軍のオスプレイ再開を原因究明の無いまま日本政府は容認しました。

沖縄県民は「オスプレイが頭の上を飛ぶ住民としては不安で納得いかない」「一方的に再開を決められ植民地扱いに怒り心頭だ」と命が脅かされている不安と市民の命を守ろうとしない日米政府に対して抗議と怒りの声があがっています。

オスプレイは、開発段階から、何度も墜落事故を繰り返し30人が死亡しました。実践配置されてからも2010年にアフガンで墜落し、4人が死亡。2012年4月にはモロッコで墜落し、2人が死亡しました。2015年5月にはハワイで1人死亡、さらには米国で墜落し、5人が負傷しました。まさに世界で最も危険な軍用機です。アメリカ本国でも「ウィドウ(未亡人)メーカー」という不名誉な呼ばれ方がある程で、日本にあるアメリカ人居住区上空を避けて飛行しています。

しかし、日本では、住宅地の中にあり「世界一危険な基地」とも称される普天間基地に24機を配置、2018年度までにアメリカ側から17機購入を予定、佐賀空港に配備が検討されています。アメリカ国防安全保障協力局は3600億円と試算しています。こんな大金をアメリカの軍需産業に投じてわざわざ危険なものを手にする必要性がどこにあるのでしょうか？この金を少子化対策、教育補助や福祉に使うのが平和に繋がる近道です。オスプレイは従来のヘリと比べ深夜・早朝の運用が増え、夜間の飛行が常態化しており、騒音や不眠、いつ落ちるか分からない不安に市民は脅かされています。

今年の6月13日に発表された、オスプレイの沖縄配置に関する環境審査の報告書では、普天間基地に配置されたオスプレイが、沖縄全域のみならず「本土」の各地でも低空飛行訓練を行うことが明らかになり、危険性が全国に広がります。沖縄県以外に、山口県の岩国基地や静岡県のキャンプ富士に派遣し、東北、北信越、近畿、四国、沖縄、奄美など6つのルートで飛行させる計画となっています。

私たちは以上の趣旨にたつて次のことを求めます。

【要請事項】

- ・ 日本国政府はアメリカ合衆国政府に対し直ちに「オスプレイが日本国内の上空を飛来しないよう」求めること。
- ・ 日本政府はオスプレイ購入計画を直ちに中止すること。

氏名	住所

【取扱団体】

平城ニュータウン九条の会 (heijyounewtown9article@gmail.com)